

LPガス
人と地球にスマイルを

ちば炎の仲間

発行

一般社団法人千葉県LPガス協会広報委員会
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-13-1

TEL 043-246-1725

FAX 043-243-6781

E-mail : chibalpg@chibalpg.or.jp

http://www.chibalpg@chibalpg.or.jp

毎月10日は保安の日

平成28年度 千葉県高压ガス輸送車等防災 訓練を実施

去る11月8日(火)、午後1時より、大堀川防災レクリエーション公園(柏市篠籠田字57)に於いて、平成28年度千葉県高压ガス輸送車等防災訓練が実施されました。

この訓練は、千葉県及び千葉県高压ガス地域防災協議会の共催で実施され、千葉県防災危機管理部長を本部長とし、各関係機関、関係団体及び事業所が参加し、高压ガス輸送車の移動中における事故等を想定し、関係者が見守る中各種の訓練が実施されました。

当協会は、柏支部の(有)足達商店、カシワプロパンガス(株)、(株)エネサンス関東柏事業所の皆様にご協力を頂きLPガス・カートリッジ缶等の破裂燃焼実験に参加致しました。当日は、好天にも恵まれ、風もなく、破裂燃焼実験では着火等がスムーズに行うことができました。カートリッジ缶等の爆発の凄まじさには改めて驚かされ、LPガスを取り扱う者にとって保安の確保がいかに重要かを再認識しました。

また、皆様に「災害に強いLPガス」をご理解いただくため、柏支部で災害用炊き出し設備を展示し、「オニオンスープ」を提供いたしました。参加者には、体が温まると大好評でした。

なお、同じブースにおいて、液化石油ガスの事故防止ポスターコンクールで入賞され、10月25日の千葉県高压ガス保安大会において、最優秀賞を受賞した小中学生のポスター展示、「ガス放出防止型高压ホース」及びFRP容器の展示説明を行ないました。

当協会では、千葉県の委託事業でもある「地震・津波対策」及びLPガス業界を挙げて事故防止対策に取り組んでいる「LPガス安全応援推進運動“すべてはおお客様の安心のために”」の自然対策の一環として「ガス放出防止型高压ホース・ガス放出防止器の導入」及び「容器の鎖掛けの二重化の徹底」等を保安講習会等で推進しております。

訓練は、LPガス・カートリッジ缶等の破裂燃焼実験の他アンモニアガス漏えい時の処置訓練、空気呼吸器装着訓練、高压ガスの実験、そして酸素・液化石油ガス輸送車防災訓練が実践さながらに行われました。

特に、地域住民への二次災害の発生及び拡大を防止するため、警察及び消防機関並びに防災事業所との連携及び協力体制が十分に発揮

され迅速かつ的確に行われた訓練となりました。

柏支部の皆様には大変ご尽力をいただきありがとうございました。



全L協から正会員へ要請

一般社団法人全国LPガス協会(全L協)は、平成28年10月25日付で正会員(都道府県協会及び企業会員)に対して「液化石油ガス流通ワーキンググループ報告書の対応について(お願い)」の要請を行いました。

標記ワーキンググループ(以下、「液石流通WG」という。)については、本紙第201号並びに第202号にてお知らせしました。

全L協では、この度、執行役員会において協議した結果、下記の対応のあり方を全L協の方針として進めていくこととし、**都道府県協会の正副会長と直接会員(事業所・系列店)に対して周知徹底方を要請しました。**

記

- (1) 消費者から選択されるための料金の透明化
(標準的料金メニューの公表)
 - ・ ホームページや店頭掲示により標準的料金メニューを公表する。
 - ・ 全L協正副会長・執行役員、都道府県協会正副会長、全L協直接会員については、平成29年1月を目標に公表することとする。
 - ・ 全L協流通委員会委員については、12月を目標に公表することとする。
- (2) 契約時における料金透明化
(賃貸型集合住宅入居者に対する取引条件の説明の徹底)
 - ・ 賃貸集合住宅入居者に対する賃貸借契約時におけるLPガス料金の説明を徹底する。
 - ・ 貸付設備がある場合は、その説明と交付書面への記載を徹底する。
 - ・ 過剰投資を自粛し、良識ある投資をする。
- (3) 契約後の消費者に対する料金透明化
(値上げ時・料金請求時における料金透明化)
 - ・ 定期的に料金を見直し、料金を改定する場合には事前に料金表を交付する。
 - ・ 基本料金と従量料金を明確にして消費者に説明する。
- (4) 契約終了時における料金トラブルの防止
(書面交付時における取引条件の説明の徹底)
 - ・ 貸付設備がある消費者に対し、契約時に取引条件の説明を徹底する。

なお、標準的な料金メニューの公表に当たっては、平成28年6月23日付け(全L協総務28第56号)「ホームページにおける標準的な料金メニュー等の掲載について」を遵守し、独占禁止法に抵触しないように努める。

以上

業界最新情報は協会HPの活動便りから!

お知らせコーナー 千葉県防災危機管理部産業保安課 保安対策室



本県の液化石油ガス保安行政の推進につきましては、日頃から御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

1 平成 28 年度液化石油ガス・高圧ガス保安活動促進行事の実施について

県では、9 月から 11 月に空気呼吸器装着訓練、液化石油ガス事故防止に関するポスターコンクール、高圧ガス保安大会、高圧ガス輸送車等防災訓練等の保安活動促進行事を実施しました。貴協会及び協会の皆様様の絶大なる御協力をいただき、おかげさまで本年度も各行事を成功裏に終了することができました。心よりお礼申し上げます。

最優秀賞 2 作品

<小学校高学年の部>

千葉市立 蘇我小学校 4 年
小泉 芽絵 さん



消し忘れていたコンロから立ちのぼる煙。伝えたい思いがストレートに表現された作品です。力強いクレヨンの線と、水彩絵具の水をはじく技法を上手にいかしました。

<中学校の部>

鎌ヶ谷市立 第四中学校 1 年
塩野 香菜 さん



立ちのぼる黒い煙に思わず顔を覆う場面を、圧倒的な描写力で描き出しています。細部の表現にもこだわりがあり、作者の想いの強さを感しました。

優秀賞 2 作品

<小学校高学年の部>

印西市立 木下小学校 6 年
篠原 美咲 さん



水色と黄色の対比をいかし、明るくさわやかなイメージで安全な使用を呼び掛けています。機器の描写も細部まで丁寧に表しました。

<中学校の部>

千葉市立 朝日ヶ丘中学校 2 年
大河内 唯香 さん



明るい配色と見やすい画面構成に好感が持てます。呼びかけの言葉や丁寧な描写の様子に、作者の誠実な人柄がうかがえます。

2 高圧ガス保安法液化石油ガス保安規則等の改正について (液石則第 4 9 条)

経済産業省は、平成 28 年 11 月 1 日付で液化石油ガス保安規則等の改正を行いました。

この改正により、充填容器等を車両に積載して移動する際の基準のうち、下記の項目については、「容器の内容積が 25 リットル以下である充填容器等のみを積載した車両であって、当該積載容器の内容積の合計が 50 リットル以下である場合」は除外されることになりました (改正前は内容積 20 リットル以下の充填容器等のみで積載容器の内容積の合計が 40 リットル以下)。

【該当項目】

- ・車両の前後に警戒標の掲示
- ・消火設備並びに防災資材及び工具等の携行
- ・駐車場所の選定及び車両から離れることの禁止 (食事等、やむを得ない場合を除く)
- ・移動中の注意事項を記載した書面 (イエローカード) の携帯 (充填容器等に移動時の注意事項を示したラベルが貼付されている場合に限る)

3 平成 28 年 10 月 1 日からの防災危機管理部産業保安課保安対策室の配置について

防災危機管理部産業保安課では、平成 28 年 10 月 1 日付で配置の変更がありました。液化石油ガス・冷凍担当の職員と担当地区をお知らせします。

保安対策室

副課長兼保安対策室長 江澤 昌夫
主 幹 菊池 滋

液化石油ガス・冷凍担当 (担当地区)

主 査 上原 健 (市原・山武・長生・夷隅・安房管内)
副主査 樋爪 紀子 (東葛飾・葛南・印旛管内)
副主査 堀中 洸太 (香取・海匝・君津管内)
主 事 竹内 祐輔 (千葉市)

第38回 千葉県高圧ガス保安大会を開催

平成28年10月25日(火)に三井ガーデンホテル千葉において、千葉県と一般社団法人千葉県LPガス協会、一般社団法人千葉県高圧ガス保安協会、一般社団法人千葉県冷凍設備保安協会、千葉県高圧ガス流通保安協会、千葉県冷凍空調設備協会の関係5団体による千葉県高圧ガス保安大会が開催されました。

当協会では青木秀夫氏(有限会社青木酸素商店:安房支部)、齋藤豊久氏(齋藤液化ガス株式会社:長夷支部)、秋元利文氏(株式会社秋元商店:市川支部)の3氏が多年にわたる業界発展に貢献し、保安確保に尽力された功績に対する保安功労者として知事表彰を受賞されました。

また当協会協会長表彰として、右表のとおり優良事業所5社、優良従業員9名の方々が受賞されました。

なお、小中学校の児童・生徒を対象としたポスターコンクールでは、優秀な作品に対して千葉県知事の「最優秀賞」及び「優秀賞」それぞれ2名、千葉県LPガス協会長の「優良賞」3名の表彰も併せて行われました。

閉会後の記念講演は、井上浩義氏(慶應義塾大学医学部教授)をお招きし『食の安全と機能性』との演題で行われ、盛会裏に終了いたしました。



青木 秀夫氏



齋藤 豊久氏



秋元 利文氏

優良事業所表彰

支部名	優良事業所名	代表者名
柏	有限会社八幡前商店	鍋木 勝好
山武	有限会社大竹商事	大竹 操
海匝	有限会社遠藤屋	遠藤 博之
鎌子	有限会社永田ヤ本店	栗原 正博
安房	株式会社佐久間総合設備	佐久間 尚清

優良従業員表彰

支部名	優良従業員名	事業所名
千葉	小倉 敏和	東洋商事(株)
船橋	古川 道晴	榊松戸商事
柏	松島 繁幸	南松島甚五郎商店
印旛	長谷川 能正	南長谷川商店
山武	木口 茂	南岡田屋商店
海匝	田村 則行	田村燃料店
安房	伊澤 大輔	南多田商店
長夷	君塚 広三郎	齋藤液化ガス(株)
農協	宮崎 裕幸	市原市農業協同組合北部営農センター

LPガス消費者保安推進大会を開催



行木 静氏



山中 操氏

LPガス安全委員会では、平成28年10月27日(木)に如水会館(東京都千代田区一ツ橋 2-1-1)でLPガス消費者保安推進大会を開催しました。

本表彰は、自主保安活動を推進し顕著な功績を挙げた液化石油ガス販売事業者等を表彰することにより、保安意識の高揚を図り、もって液化石油ガスによる一般消費者等の事故を撲滅することを目的としています。

表彰の種類は、(1)保安優良液化石油ガス販売事業者表彰と(2)保安功労者(個人)、優良液化石油ガス関係団体及び優良保安機関

の表彰の2種類です。

この表彰は、自主保安チェックシートの点数により自己推薦する制度となっていますが、千葉県協会では、このチェックシートによる自己の保安水準を把握することを推進していることから、75点以上の方々に対して協会から自己推薦することを依頼し、2社から自己推薦していただきました。

この結果、(株)鶴長本店(行木 静代表取締役:山武支部)とシンニチガス(株)(山中 操代表取締役:千葉支部)が(1)保安優良液化石油ガス販売事業者表彰の経済産業大臣官房商務流通保安審議官表彰を受賞されました。誠にありがとうございます。

表彰式後には、「おしゃもじ」時代、往年の雰囲気をもたに讃えながら主婦連合会の兵藤美代子氏から受賞者挨拶を頂きました。

また、記念講演では、毒蝮 三太夫氏から「ママシ流元気で長生きするコツさせるコツ」の演題で、お年寄りには、「素直」に「瑞々しく」、「笑顔を絶やさないと」が長生きするコツであると毒舌の中にも暖かみのある毒蝮流話術で教授され、笑いの中にも感心させられてきました。

住宅ストック循環支援事業が開始 エコリフォームも対象!

この事業は、平成28年8月2日に閣議決定された「未来への投資を実現する経済対策」です。

この事業は、次の3つの事業が対象です。

- 1 エコリフォームに対する支援
- 2 既存住宅の購入に対する支援
- 3 エコ住宅への建替えに対する支援

概ね、対象工事・高効率給湯器補助金額(24,000円)は、2015年度の省エネ住宅ポイントと同じです。

詳細は、下記へお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

住宅ストック循環支援事業事務局

TEL: 0570-069-888

<http://stock-jutaku.jp>

国土交通省住宅局住宅生産課

TEL: 03-5253-8111 (代表)

<http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/index.html>

全国親子クッキングコンテスト千葉県 大会実技選考会を開催

2016年10月22日(土)

千葉県内17の都市ガス業者で組織する房総ガス協議会では、2551組の親子が応募し、書類選考を通過した5組による全国親子クッキングコンテスト千葉県大会が平成28年10月22日(土)に京葉ガス市川ショールームで開催されました。

結果は、未だ公表されていませんが、LPガスを使用している親子が優勝し、関東大会に出場することになりました。

全国親子クッキングコンテストの参加資格は、親(保護者)と子(小学1年生~6年生)の2名1組です。本年大会の書類選考は、昨年度300組の申込に対して2551組と非常に激戦でした。ウィズガスCLUBが主催して今回が10回を数える節目となる大会です。

千葉県大会での審査のポイントは、1. 美味しいこと、2. 千産千消の推進に貢献していること、3. 親子の協働作業(チームワーク)がとれていること、4. ガスならではの調理方法となっていることの4項目でした。

関東大会は、平成28年11月27日(日)に開催されました。結果は、2月号をお待ちください。

火鉢のある暮らし

松戸支部 椎橋 孝幸

火鉢の起源は定かではありませんが、炭を燃料とするのは奈良の大仏の鑄造に始まり、平安時代の枕草子には「寒い朝、急いで火を起し、炭を持って歩くのは、なんとも冬にふさわしい」と風流な詩も唄われています。

田舎の古めかしい民家には今でも囲炉裏が切ってあったりもします。自在鍵に吊るした鉄瓶がチンチン鳴っている雰囲気はなかなかかなものです。もちろん暖房効率を考えるとストーブやエアコンには到底及びません。

しかし火の着いた炭を少しずつ育てて、時間が経つにつれなんとなく部屋が暖かくなる。この「なんとなく」の状態が気に入っていて、暑くなく、寒くない。やわらかい暖かさだと思います。そしてパチパチと炭の爆ぜる音、鉄瓶にお湯が沸く音を聞いていると何とも心地よい気分になるものです。お湯を沸かしておく部屋に加湿器がわりにもなり、炭火でゆっくり沸かした湯は、とてもやわらかく程よく鉄分を含んでいるので白湯をいただくで貧血の予防にもなるそうです。我が家でも寒くなると火鉢を出して、どこか懐かしい雰囲気を味わっています。

ところで、なぜ火のある所に人が集まるのでしょうか？子供達が「ただいま〜」と帰宅すると、火鉢に手をかざしに来ます。そして食事が終わると、火鉢を囲んで1日の出来事など他愛もない話をしています。私も仕事後にテレビを見ながら、焼酎やつまみを片手に炭火に手をかざします。優しい熱が伝わってきて、リラックス出来る癒しの時間です。慌ただしい毎日に少しでもスローな時間を作るのも良いのではないのでしょうか？



そして年中部屋の中に火があると、スーパーで買って来たパンや餅、野菜や干物などを焼いて食べる事があります。

これからの季節のお奨めは「焼きミカン」数年前に和歌山県でご馳走になって以来、この時期になると食べたくなります。ミカンを焼いて食べると、甘みが増すのに加えて、ビタミンCなどの抗酸化作用の高い成分が凝縮されて体の免疫力がアップされるそうです。焼きミカン+ヨーグルトは鉄板の味ですが、ちょっと意外な食べ方で暖かいミカンにバターをのせても美味しい。そこに蜂蜜とシナモンをかけると、さらに美味しくなります。皆さんも時間の空いた時に、ぜひ試してみてください。

熊本地震被災地視察研修に参加して

青年委員会 香取支部 菱木廣志

秋深い11月6日から7日に青年委員会研修として、13名が熊本県を訪問してきました。

研修内容は、熊本県青年委員会との意見交換会、寄付金の贈呈、地震発生から半年余りが経過した被災地の現状視察を行いました。

被災地の視察では、熊本県青年委員会の方に、益城町、南阿蘇村、熊本市、阿蘇市等を案内や状況説明をしていただきました。

今回の地震で一番の被害があつ益城町では、大きくずれた断層や崩れた瓦屋根、倒壊した家屋、液状化による地盤沈下等で傾いた家屋、舗装が波打つ状態の道路等が、地震発生直後の状態で今でも多く残っています。倒壊した家屋等は、解体した廃材の仮置き場等の問題などもあり、解体作業が思うように進まず残っているとのことでした。益城町のLPガス販売店でも、店舗や自宅が大きく被害を受け解体を待つ状況で、その被災した店舗に手書きの営業中の看板を出し営業を続けていました。

南阿蘇村では、TVや新聞で多く報道されていた、崩落した阿蘇大橋や倒壊した学生寮の現場を目の当たりにし、改めて甚大な被害であったと実感しました。又、この地区では、東海大農学部があり、多くのアパートに学生が生活していたが、大学や多くのアパート等が被災、そのため大学は仮移転し、学生も引越しを余儀なくされ、ライフラインの復旧も遅れて、ゴーストタウンと化していました。熊本市の市街地、阿蘇市の阿蘇神社を訪れると、その歴史的建造物

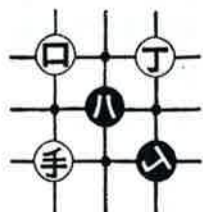
は倒壊し無残な様子を見て愕然としました。再建不可能に近く、途轍もない歳月と資金が必要とのことでした。

意見交換会に先立ち、柏熊青年委員会委員長が廃棄ガスメーター回収での収益の一部を寄付金として、熊本県青年委員会に贈呈しました。

意見交換会では、地震発生時の体験談やその後の対応などを聞くと、災害協定による炊き出し、支援物資の搬送、倒壊家屋の残置ボンベの回収などを行ったようですが、余震が続く中、まずは身の安全を第一に注意しながら作業したそうです。又、今回の地震で被災した地域の多くは、LPガス利用地域であったが、LPガスによる火災等の二次被害はなかったことを聞き、安心しました。

今回視察をした熊本県の被害ほどではありませんが、私の地元香取市も東日本大震災で被害を受ました。今回視察した地域の現状を見て、改めて日頃から防災に心がける事が必要で、その防災対策として容器の鎖の二重掛けをするなどをしていき、地域に密着して、安心、安全、災害に強いLPガスを宣伝して、お客様に選ばれるLPガス事業者を目指していこうと思います。

最後になりましたが、亡くなられた方々のご冥福と被災された方々の一日でも早い復興を心よりお祈り致します。



今年を振り返ると、地震と大雨の年であったと言えると思います。地震について見てみますと、4月の熊本地震は、4月

14日夜と同月16日未明の2回震度7を観測する、気象庁震度階級制定後初のケースであり、本震と思ったものが余震で、その後の本震で犠牲者が増えてしまいました。

また、10月21日には鳥取県中部を震源とする地震で震度6弱を観測した地震があ

りました。一説によると、平成7年の阪神淡路大震災が発生して以来、日本列島が地震の活動期に入ったのではないかとされています。また、第2次大戦終戦前後の昭和18年の「鳥取地震」から、19年の「昭和東南海地震」、21年の「三河地震」、22年の「昭和南海地震」と4つの巨大地震が発生しており、こちらの連動も不気味であります。

最近、各自治体の防災訓練に出て感じるのですが、東日本大震災から5年が経ち、

我々もそうですが、訓練に若干慣れてきてしまい、一つのイベントになっている様に感じます。

これを契機に、今一度、大地震が来た時を想定し、支部内の連絡網他の整備、改訂された「災害対策マニュアル(平成26年9月)」の見直し、実際どの様に動くのか考えたいと思います。「備えあれば憂いなし。」です。来年が会員皆様にとって良い年となることをご祈念して編集後記と致します。

秋元 利文 記

空家の充てん容器は必ず撤去しましょう！